

# 羽生城跡(羽生市)

築城年代:戦国時代、築城者:広田直繁

鳥居が立っている



鳥居の先を右手に折れたところにあるのが古城天満宮(天神社)





石碑や説明板が立っている



左手の説明坂の背後には「城橋」の碑が立っている



「羽生城址」とある



指定文化財

### 羽生菅公廟梅樹記の碑 (史料 羽生市指定第15号 昭和39年9月9日)

天神社は菅原道真を祭る神社です。光野天満宮を祖本社として全国に一万余の分祀社があるといわれています。今では学問の神様として信仰されており、「こも吹かば にはひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春な忘れず」という道真の句にちなみ梅の樹が植えられています。

この碑の撰文と書(文章をつくり、碑文を書くこと)は、江戸時代中期の著名な蘭学者の蘭館蘭番によってなされました。蘭番は寛政異学の禁により弾圧を受けた人物ですが、現在の文春市に設立された蘭博物館に訪かれ、この蘭館の子孫教育に多くの影響を与えました。

### 天満宮の額 (史料 羽生市指定第16号 昭和39年9月9日)

この額を書いた高島姓生(1633年-1695年)は、福岡(福屋)福清郡に生まれ、母は神武、十三歳で出家し、筑前山の懸門和洋に神事しました。博元に招かれ寛文元年(1661)に奉目し、京都府宇治の万福寺の第五世となった高僧です。神宗の高僧の書は特に墨跡と呼ばれ重用されますが、例のいれか神社に納められていることは不思議です。

### 羽生城跡 (史料 羽生市指定第14号 昭和44年12月5日)

羽生城は天文年間の中頃(1540年代)に吉河公方(足利晴氏)の配下であった北田兼繁・永戸忠綱の兄弟によって築かれました。三方を深地で囲まれた天然の要害であり、上野原信の関東攻略の最終拠地でしたが、天正二年(1574)に落城し、忠綱末の支配となりました。徳川家康の開東入国後は天文保元陣の支配となりましたが、慶長十九年の定綱の改修に伴い廢城となりました。現在石垣りまなどのものは残もなく、城跡は天神廟の指定地です。

平成3年3月20日

文化財を大切に

羽生市教育委員会



ここは天神郭跡で、羽生城の鎮守だった天満宮の地は古城と呼ばれていたのが古城天満宮と称すようだ



### 古城天満宮縁起（口語）

（口語訳）

武蔵国の北部、羽生の東端に菅公廟が建っていて、古城天満宮と稱している。今から九百六十九年前（明治四十二年）から数えるとし、歴史の伝えるところによると、秀郷は平将門を討伐した功績により武蔵、下野の二国の押頭使に任じられた。役所を下野（国）に開いて自らここに居住し、また役所を羽生にも開き、子の武蔵介千晴をそこに住まわせ、武蔵（国）一國に開くことを管轄させた。役所のあるところには、それぞれ菅公廟を建てた。そのうち下野（国）に建てたのが現在の佐野廟である。

（菅公廟を）大業大事にして西暦一五五六年、羽生貴沢城主本戸伊豆守忠朝もまた菅公を勧誘して古城天満宮と改称して、城中の守護神とした。

昔からの言い伝えによると、忠朝は、新田義重の七代目に当たる民部少輔基氏から数えて十代目の子孫であるという。伊豆守に任じられて、武田信玄の武將の一人として仕え、この地に城を築いて居住し、羽生浦五万八千石を領有した。

天正三年正月二十五日、北條（北条）氏に属していた同国（武蔵国）忍城主成田下守の家老小松兵衛、荒川一学と戦い、防戦に努めたが、業軍敵せず（日人数に差がありすぎて勝目がないこと）、將兵二百名が討ち死にした。（そして）遂に城は落ちたのである。その時、大風が吹いていたこともあり、戦火によって社殿や宝物が焼失してしまった。のちに、村人たちが相談して現在の社殿を再建したのである。

当町の豪商杉下為吉氏の父岩五郎翁が、氏子の人々の永遠の無事を祈願して、（碑に）古城の在りし日の姿を知して（天満宮に）奉獻しようと思ひ立ち、私に（天満）宮の縁起を書き記すよう依頼があった。

私は学識に欠け、その任に適していないけれども、熱心な依頼を拒むことができなかった。（そこで私は）老人たちに言い伝えられてきた伝承を拾い集めて、その責任をなんとか果たすことができた。見識のある人が後に（天満宮の縁起を）書き改めてくれることを切に望んでいる。誤りを正して、それをその時々に応じて広く伝えることに躊躇しないで欲しい。

明治四十二年五月二十五日

羽生町長 藤七等三木辰五郎 拜して識す

古城天満宮社殿



「天満宮の額」



左手前が拝殿、右奥が本殿





本殿



こんな石碑も立っていた





さて、正面は古城天満宮の西に位置する高山稲荷神社



この高山稲荷神社周辺が本丸のあったエリアらしい







## 参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/227hanvu/hanyu.html>

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Saitama/Hanyuu/>

<http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/hanyuuisai.htm>

<http://gta-yuta.blogspot.jp/2014/08/blog-post.html>

<http://www.geocities.jp/sisin9monryu/saitama.kazo.hanyuu.html>

<http://ckk12850.exblog.jp/11408817>

<http://ameblo.jp/napo-iou/entry-11644536766.html>

<http://yaminabe36.tuzigiri.com/saitama2/osi2.htm>

<http://blogs.yahoo.co.jp/aganohito/32474475.html>

<http://azumino-fan.net/gyokyo-14/kisai.htm>

[http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12\\_Saitama/hanvu/index.html](http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12_Saitama/hanvu/index.html)

<http://hanarai.jugem.jp/?eid=188>

